

国立大学の共同利用・共同研究拠点に係る 中間評価(平成30年度)の結果及び予算への反映について

I. 評価区分ごとの中間評価結果(総括表)

総合評価		専門委員会 /計	理工学系 (大型設備利 用型)	理工学系 (共同研究型)	医学・生物学 系(医学系)	医学・生物学 系(生物学)	人文・社会科 学系	異分野融合系
S 拠点としての活動が活発に行わ れており、共同利用・共同研究を 通じて特筆すべき成果や効果が 見られ、関連コミュニティへの貢献 も多大であったと判断される。	(目安) 20%	11	3	3	2	2	1	0
		(14%)	(21%)	(13%)	(12%)	(17%)	(13%)	(0%)
A 拠点としての活動は概ね順調に 行われており、関連コミュニティへ の貢献もあり、今後も、共同利用・ 共同研究を通じた成果や効果が 期待される。	50%	45	7	14	11	7	4	2
		(58%)	(50%)	(61%)	(65%)	(58%)	(50%)	(67%)
B 拠点としての活動は行われている ものの拠点の規模等と比較して 低調であり、作業部会からの助言 や関連コミュニティからの意見等 を踏まえた適切な取組が必要と 判断される。	30%	21	4	6	4	3	3	1
		(27%)	(29%)	(26%)	(24%)	(25%)	(38%)	(33%)
C 拠点としての活動が十分とは言え ず、認定の基準に適合していない 状況にある可能性がある判断され る。(なお、「C」の評定は、評価 結果の決定後、認定の取消につ いての審議において考慮され る。)		0	0	0	0	0	0	0
		(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)
計		77	14	23	17	12	8	3

※(カッコ)内は各専門委員会ごとの評価区分の割合であり、小数点以下を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある。

II. 中間評価結果の予算への反映

- S・A評価の拠点に対しては、分野等も勘案し、以下の表のとおり中間評価加算分を再配分

分野/評価区分	S評価〔千円〕	A評価〔千円〕
理工系	14,000	6,300
人社系	6,350	2,900
医学系	12,300	5,450

- S・A評価のネットワーク型拠点については、上記に加え、機関間の調整業務に対応する職員等の経費(@8,606千円)を配分。(200人以上のネットワーク型拠点については2名分を配分)
- B・C評価の拠点に対しては中間評価結果を踏まえた加算は行わない。

評価対象拠点及び各専門委員会における評価区分(中間評価結果)一覧

【評価区分の内容】

- S: 拠点としての活動が活発に行われており、共同利用・共同研究を通じて特筆すべき成果や効果が見られ、関連コミュニティへの貢献も多大であったと判断される。
- A: 拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献もあり、今後も、共同利用・共同研究を通じた成果や効果が期待される。
- B: 拠点としての活動は行われているものの拠点の規模等と比較して低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。
- C: 拠点としての活動が十分とは言えず、認定の基準に適合していない状況にある可能性があるとして判断される。(なお、「C」の評定は、評価結果の決定後、認定の取消についての審議において考慮される。)

【理工学系(大型設備利用型)14拠点(S:3、A:7、B:4、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
1	東北大学	電子光物理学研究センター	電子光物理学研究拠点	A
2	筑波大学	計算科学研究センター	先端学際計算科学共同研究拠点	A
3	東京大学	宇宙線研究所	宇宙線研究拠点	S
4	東京大学	素粒子物理国際研究センター	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点	A
5	東京大学	物性研究所	物性科学研究拠点	S
6	京都大学	原子炉実験所	複合原子力科学拠点	A
7	京都大学	生存圏研究所	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点	B
8	大阪大学	核物理研究センター	サブアトムック科学研究拠点	S
9	大阪大学	レーザー科学研究所	レーザーエネルギー学先端研究拠点	B
10	広島大学	放射光科学研究センター	放射光物質物理学研究拠点	B
11	高知大学	海洋コア総合研究センター	地球掘削科学共同利用・共同研究拠点	A
12	九州大学	応用力学研究所	応用力学共同研究拠点	A
13	佐賀大学	海洋エネルギー研究センター	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点	B
14	東京大学(中核機関)	情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点(ネットワーク型)	A

【理工学系(共同研究型)23拠点(S:3、A:14、B:6、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
15	北海道大学	低温科学研究所	低温科学研究拠点	A
16	北海道大学	触媒科学研究所	触媒科学研究拠点	B
17	東北大学	金属材料研究所	材料科学共同利用・共同研究拠点	S
18	東北大学	電気通信研究所	情報通信共同研究拠点	A
19	東北大学	流体科学研究所	流体科学国際研究教育拠点	A
20	千葉大学	環境リモートセンシング研究センター	環境リモートセンシング研究拠点	B
21	東京大学	空間情報科学研究センター	空間情報科学研究拠点	B
22	東京大学	地震研究所	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点	A
23	東京工業大学	フロンティア材料研究所	先端無機材料共同研究拠点	A
24	金沢大学	環日本海域環境研究センター	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点	B
25	名古屋大学	宇宙地球環境研究所	宇宙地球環境研究拠点	A
26	名古屋大学	未来材料・システム研究所	革新的省エネルギーのための材料とシステム研究拠点	A
27	京都大学	エネルギー理工学研究所	ゼロエミッションエネルギー研究拠点	A
28	京都大学	化学研究所	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点	A
29	京都大学	基礎物理学研究所	理論物理学研究拠点	S
30	京都大学	数理解析研究所	数学・数理科学の先端的共同利用・共同研究拠点	A
31	京都大学	防災研究所	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点	A
32	大阪大学	接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	A
33	岡山大学	惑星物質研究所	地球・惑星物質科学研究拠点	B
34	愛媛大学	地球深部ダイナミクス研究センター	先進超高压科学研究拠点	A
35	九州大学	マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点	A
36	東北大学(中核機関)	多元物質科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点(ネットワーク型)	S
37	北海道大学(中核機関)	北極域研究センター	北極域研究共同推進拠点(連携ネットワーク型)	B

【医学・生物学系(医学系)17拠点(S:2、A11、B:4、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
38	北海道大学	遺伝子病制御研究所	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染癌の先端的研究拠点	B
39	北海道大学	人獣共通感染症リサーチセンター	人獣共通感染症研究拠点	A
40	東北大学	加齢医学研究所	加齢医学研究拠点	A
41	群馬大学	生体調節研究所	内分泌・代謝学共同研究拠点	A
42	千葉大学	真菌医学研究センター	真菌感染症研究拠点	A
43	東京大学	医科学研究所	基礎・応用医科学の推進と先端医療の実現を目指した医科学共同研究拠点	S
44	東京医科歯科大学	難治疾患研究所	難治疾患共同研究拠点	A
45	新潟大学	脳研究所	脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点	A
46	金沢大学	がん進展制御研究所	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点	A
47	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点	B
48	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点	B
49	大阪大学	微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	S
50	徳島大学	先端酵素学研究所	酵素学研究拠点	B
51	九州大学	生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点	A
52	長崎大学	熱帯医学研究所	熱帯医学研究拠点	A
53	熊本大学	発生医学研究所	発生医学の共同研究拠点	A
54	広島大学(中核機関)	原爆放射線医科学研究所	放射線災害・医科学研究拠点(ネットワーク型)	A

【医学・生物学系(生物学系)12拠点(S:2、A7、B:3、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
55	帯広畜産大学	原虫病研究センター	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点	A
56	筑波大学	つくば機能植物イノベーション研究センター-遺伝子実験センター	形質転換植物デザイン研究拠点	A
57	東京大学	大気海洋研究所	大気海洋研究拠点	S
58	京都大学	生態学研究センター	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点	A
59	京都大学	放射線生物研究センター	放射線生物学の研究推進拠点	B
60	京都大学	野生動物研究センター	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点	A
61	京都大学	霊長類研究所	霊長類学総合研究拠点	S
62	大阪大学	蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	B
63	鳥取大学	乾燥地研究センター	乾燥地科学拠点	A
64	岡山大学	資源植物科学研究所	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点	B
65	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	化学汚染・沿岸環境研究拠点	A
66	琉球大学	熱帯生物圏研究センター	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点	A

【人文・社会科学系8拠点(S:1、A4、B:3、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
67	北海道大学	スラブ・ユーラシア研究センター	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	B
68	東京大学	社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター	社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点	A
69	東京大学	史料編纂所	日本史史料の研究資源化に関する研究拠点	B
70	東京外国語大学	アジア・アフリカ言語文化研究所	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点	A
71	一橋大学	経済研究所	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点	S
72	京都大学	経済研究所	先端経済理論の国際的共同研究拠点	A
73	京都大学	人文科学研究所	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点	B
74	大阪大学	社会経済研究所	行動経済学研究拠点	A

【異分野融合系3拠点(S:0、A2、B:1、C:0)】

拠点番号	大学名	研究所名	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)
75	京都大学	東南アジア地域研究研究所	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点	B
76	京都大学	東南アジア地域研究研究所	東南アジア研究の国際共同研究拠点	A
77	東京医科歯科大学(中核機関)	生体材料工学研究所	生体医工学共同研究拠点(ネットワーク型)	A

国立大学の共同利用・共同研究拠点に係る中間評価の結果について（談話）

この度、科学技術・学術審議会学術分科会共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会として、国立大学法人の共同利用・共同研究拠点に係る中間評価の結果をお示しさせていただきました。

評価の実施にあたっては、昨年4月から、当作業部会において、評価に係る基本的な考え方や要項等の関係資料について慎重に検討を進め、本年2月に確定させた後、各拠点到調書の作成をお願いしました。各拠点におかれては、調書作成等に多大なるご理解ご協力をいただき、誠に有り難うございました。

ご提出いただいた調書に基づき、当作業部会では、6月から、作業部会の下に設置された6つの専門委員会ごとに書面評価を実施するとともに、各分野の専門家からも評価意見をいただき、これをもとに専門委員会で書面評価の結果を取りまとめるなど、各拠点の研究活動の専門性に十分配慮するよう努めました。

また、書面評価の結果を踏まえ、さらに確認が必要な拠点に限定してヒアリング評価を実施させていただくなど、評価作業における負担軽減も図ってまいりました。

こうした作業を通じ、いずれの拠点も、研究施設としてそれぞれ特色ある優れた活動を行い、大学の機能強化に貢献していることが確認できました。

一方、昨今、学術研究における共同利用・共同研究体制の機能強化が求められる中、今回の中間評価では、共同利用・共同研究拠点として期待される機能を適切に果たしているか慎重に確認させていただきました。

特に、今回の中間評価では、こうした活動実績に関する評価結果を、拠点間で比較するいわゆる「相対評価」を導入し、上位20%を「S」、下位30%を「B」又は「C」とすることを目安として評定を示すこととしました。これは、前期の期末評価と同様に評価結果を資源配分に反映させる際、共同利用・共同研究拠点としての機能が高い拠点を積極的に評価し、重点的に予算配分することにより、共同利用・共同研究拠点全体の活動を活発にすることを目的としております。

なお、評価については、作業部会としても、共同利用・共同研究拠点活動の充実に資するよう、今後とも不断の改善に取り組んでいくこととしています。

各拠点におかれては、今回の中間評価の結果をご参考にいただき、第3期中期目標期間の後半に向けて、共同利用・共同研究拠点として、運営の改善や活動の充実等に取り組まれますようお願い申し上げます。

平成30年10月

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点
に関する作業部会

主 査 稲 永 忍